

PR

企画・制作 / 読売新聞社広告局

10月10日は「目の愛護デー」



# 早期発見・治療が目を守る

### 「目のすべて展」 入場無料

10月7日(日)、8日(月・祝)の2日間、「目のすべて展」がフリーゼラザホールで開催されます。「白内障」や「緑内障」などについての特別講演のほか、最新治療法や眼鏡の選び方、上手な目薬の差し方などが紹介されます。専門医による目の健康相談(両日とも先着150人)も行います。

※台風などの天候不良の場合は中止となることがあります。問い合わせ先 大阪府眼科医会 03-8762-3201(平日午前9時～午後5時)

<http://osaka-ganka.jp/>

主催：大阪府眼科医会  
後援：大阪府、大阪市、大阪府医師会、大阪アイバンク、日本ライトハウス、読売光と愛の事業団大阪支部、読売新聞大阪本社

### <講演スケジュール>

10月7日(日)	午前11時開場
「眼鏡調整の大切さ」(眼鏡組合)	11:20～11:40
「白内障の話」(日本ライトハウス)	11:40～12:20
「アイバンクの話」(大阪アイバンク)	12:00～12:20
<b>特別講演1「白内障」</b>	<b>12:30～13:30</b>
【講師】大阪大学 丸山和一先生	
「目に關するクイズ」(大阪府眼科医会)	13:30～14:00
<b>特別講演2「緑内障」</b>	<b>14:00～15:00</b>
【講師】大阪医科大学 河本良輔先生	
「眼底出血」(丸山和一先生)	15:00～15:20
「老眼は若い大人の証」(池崎博先生)	15:20～15:40
「飛蚊(ひょうめん)症と網膜はく離」(宮浦徹先生)	15:40～16:00
10月8日(月・祝)	午前10時開場
「IPS細胞利用はどこまで進んだか?」(山田晴彦先生)	10:20～10:50
<b>特別講演1「加齢黄斑変性」</b>	<b>11:00～12:00</b>
【講師】大阪市立大学 本田茂先生	
「感謝状贈呈」(大阪府眼科医会)	12:00～12:20
<b>特別講演2「落語・講演」</b>	<b>12:20～13:20</b>
【講師】柱文太さん	
<b>特別講演3「緑内障」</b>	<b>13:30～14:30</b>
【講師】近畿大学 日下俊次先生	
「目に關するクイズ」(大阪府眼科医会)	14:30～15:00
<b>特別講演4「白内障」</b>	<b>15:00～16:00</b>
【講師】関西医科大学 木村元豊先生	
「目薬は上手に差していますか?」(榎本敏子先生)	16:00～16:20
「眼精疲労(疲れ目)」(宮澤裕之先生)	16:20～16:40
8日	
目の健康相談(受付時間は7日11:00～15:00、8日10:00～15:00)	
▶お楽しみ抽選会(15時～先着150人まで)	
▶眼科啓発パネル展示(大阪アイバンクコーナー)	
▶日本ライトハウスコーナー(眼鏡組合コーナー)	

会場：フリーゼタワー7階  
「フリーゼラザホール」  
(大阪市北区梅田2の4の9)  
日時：10月7日(日)午前11時開場  
10月8日(月・祝)午前10時開場



「活動方針をお聞かせください。」  
近年はインターネットの普及やSNS・メディアの健康プームによって、眼科に関する玉石混交の医療情報が氾濫し、何を信じればいいのか皆さん混乱しているのが皆さまでしょうか。そのよすなで、目の病気や治療に関する正しい知識を大阪府民の皆様にお伝えし、地域医療の充実を図っていくことが第一の

「目のすべて展」を30年以上行っています。また、大阪府立大学の眼科での市民公開講座を毎年開催しています。1年3回診察を通じて大阪府中央総合診療所へ会員眼科医を派遣したり、小中学校を中心とした眼科学校医活動なども行

「目のすべて展」に催しましたが、現在は読売新聞大阪本社を母体とした大阪府眼科医会、目薬の絵画展示などもおたのしみ展示も楽しみたい抽選会なども毎年継続して行っています。近年は自身に被害がある

「最後に読者にメッセージをお願します。」  
今すぐ「目のすべて展」は10月7、8日の2日間になります。入場無料で開催いたしますので、西梅田のフリーゼタワーまでぜひお気付きください。大阪府眼科医会をはじめとも眼科に関する地域医療の充実と、府民の皆様の目の健康の保持増進に向けてなお一層の努力をしていきたいと思います。

「目のすべて展」は、大阪府眼科医会とはどのような団体ですか?」  
1983年の創立以来、125年の歴史と伝統を持つ日本最古の眼科医会です。1983年の創立100周年を機により公益性を重視し、社団法人化して活動がなされます。私は14代目の会長ですが、当会には大阪府内で眼科診療を行っている民間眼科医・病院勤務医のほか会員が加入しており、会員数は現在約1330人です。

「具体的にどのような活動をしていっていますか?」  
なごをされていますか?」  
まず、会の内部的活動として、講習会や勉強会を通して会員全体の輪を広げるの向上を図り、努めています。対外的な活動としては、月に1回「目の無痛健康相談」を30年以上行っています。また、大阪府立大学の眼科での市民公開講座を毎年開催しています。1年3回診察を通じて大阪府中央総合診療所へ会員眼科医を派遣したり、小中学校を中心とした眼科学校医活動なども行

「目のすべて展」は、大阪府眼科医会とはどのような団体ですか?」  
1983年の創立以来、125年の歴史と伝統を持つ日本最古の眼科医会です。1983年の創立100周年を機により公益性を重視し、社団法人化して活動がなされます。私は14代目の会長ですが、当会には大阪府内で眼科診療を行っている民間眼科医・病院勤務医のほか会員が加入しており、会員数は現在約1330人です。

「最後に読者にメッセージをお願します。」  
今すぐ「目のすべて展」は10月7、8日の2日間になります。入場無料で開催いたしますので、西梅田のフリーゼタワーまでぜひお気付きください。大阪府眼科医会をはじめとも眼科に関する地域医療の充実と、府民の皆様の目の健康の保持増進に向けてなお一層の努力をしていきたいと思います。

「一般社団法人大阪府眼科医会とは、大阪の地で長年にわたって学術研究活動と地域眼科医療に取り組み、府民の目の健康を守り続けてきました。その10月10日の「目の愛護デー」を機に、同会会長の佐堀彰彦氏に、会の活動内容や、啓発イベント「目のすべて展」の概要、目の病気を早期発見するための心がけなどについて聞きました。」

一般社団法人 大阪府眼科医会 会長 佐堀 彰彦 氏



1985年神戸大学医学部卒業。同大学医学部大学院博士課程修了後、同大学眼科助手、神鋼病院眼科医長を経て91年、東大阪市内に「さほり眼科」を開設。2015年7月から一般社団法人大阪府眼科医会会長。公益財団法人大阪アイバンク理事。

## 45年間続く「目のすべて展」

「社会の高齢化とともに、加齢による目の不調を訴える人が増えています。大切なお目を病氣から守るために、目頃から気を配るべき」と目を診て教えていただきました。

まずは目頃から何でも相談できる眼科のかかりつけ医を見つけるべきです。目についてお聞きがあれば、いつ頃から、どちらの目か、どのような症状があるのかをしっかりと聞き取り、つけ医に伝えてください。問診で90%の診断はできます。時々目片目で物が見てみるのも大事です。どんな細かな変化でも素判断はせず、なるべく早く眼科を受診することが結局自分の目を守ることになります。

「目のすべて展」は、大阪府眼科医会とはどのような団体ですか?」  
1983年の創立以来、125年の歴史と伝統を持つ日本最古の眼科医会です。1983年の創立100周年を機により公益性を重視し、社団法人化して活動がなされます。私は14代目の会長ですが、当会には大阪府内で眼科診療を行っている民間眼科医・病院勤務医のほか会員が加入しており、会員数は現在約1330人です。